



寺報 ともしび

金剛山大長寺

令和三年八月十二日発行

第十五号

（いま国民がのぞむこと）

「ある宰相を想う」

安藤 康哉（大長寺小住）

戦後の宰相の中で尊崇出来る人物がいるのかと問われれば、不肖ながら私は、中曽根康弘総理大臣と申し上げたい。

九十七歳の時に示された色紙には、縁と天運の導きに感謝しながら命尽きるまで、国家国民のために尽くしぬくと書き示された。

わが命は生涯の書生であって、殉国の志士憂国の志士、となった人がいたであつたろうか。そしてさらにまた東京谷中の全生庵の道場で坐禅を修行し続けてこられた人がいたであらうか。平成七年二月十一日、自身の結婚記念日に詠んだ、人間中曽根康弘を偲ぶに相応しい句を紹介し鎮魂の文といたします。

「つつましく、老ゆる心に梅の花」

執務に向かう康哉住職、大長寺事務室で（令和三年七月）



エスディージーズ SDGsとは

副住職 安藤道隆

最近、メディアで、SDGs（エスディージーズ）という言葉をよく耳にします。

これはご存じの方も増えてきておりますが、持続可能な開発目標と訳され、世界の貧困・飢餓・さまざまな不平等を解消するためには、今何をしなければならぬかという目標が設定されています。

このまま、二酸化炭素が増加していくと北極・南極の氷が解けて、さまざまな気候変動が起きると言われており、

現在、日本国内においても、かつてないほどの豪雨が発生して災害が生じております。

次の世代の人々が安心して暮らせるように、今を生きている私たちが、地球の環境を考えていかなければなりません。

曹洞宗では、今まで、人権の確立・環境の保全・平和の実現を標榜して、教化活動に取り組んできましたが、このSDGsの理念である「誰一人取り残さない世界」の実現

は、仏教が目指す世界につながります。すべての命を等しく照らす仏さま菩薩さまが見据える世界の実現でもあるのです。

今年のオリンピックでは、2016ヶ国の選手が参加されました。

多種多様な方がたが、おられるのだと改めて認識しましたが、すべての方々が同じ地球上で、生かさせていただいているのであります。

日本のメダル数だけが、協調されますが、国籍に問わず、頑張っている姿に感激を憶えるのは、私たち同じく平等な人間だからこそ、思えることであります。

世界はつながっているという意識は、水や資源を大切にしていこう行動につながります。このことが、私たち一人の行いを変え、感謝に満ちた日々の暮らし、我欲から離れることができるのであります。

国連が定めたSDGs17の目標を言葉と図形で示しています。



ロゴ：国連広報センター作成

特別志納者の紹介

壹拾万円也	為大練忌供養	上島	北村 隆行	壹拾万円也	為年回供養	榎 本	中野 豊子
伍万円也	為年回供養	中家村	田村 優	貳万円也	為年回供養	小田原	長藤 恒成
参万円也	為年回供養	上島	小林喜三郎	壹拾万円也	為年回供養	中家村	小野田 朗
壹拾万円也	為年回供養	下島	井上 徹哉	参万円也	為年回供養	小田原	鈴木まり子

「いのち」の平等

大長寺院代 安藤 嘉則

今回の世界中に広がったコロナ禍、あるいはミャンマーや中東など、各地で大勢の庶民の命が失われています。こうした連日の報道に接していると、死というものが日常的にさえ感じられます。特に近年忘れられないのが平成二十八年に津久井やまゆり園で多くの障害ある入所者が亡くなった事件です。犯人は事件の際、「こいつらは生きていてもしょうがない」と言い、その後の裁判でも「国の負担を減らすため家族にしっかりと向き合い、多くの苦勞を共有しながら、意思疎通を取れない人間は安樂死させるべきだ」と述べたそうです。

かつて某政治家が重度障害

者施設を視察後、「ああいう人（入所者）ってのは人格あるのかね」と発言したことが問題となりました。

身内に障害をもつご家族の方は、そんな発言にどう思われるでしょうか。それぞれが大切な家族にしっかりと向き合い、多くの苦勞を共有しながら頑張っておられます。これは意思の疎通もできない身内を介護されている方も同じです。そのような方にとって人格があるとか、ないとか、そんな発想はなく、ご家族にとってかけがえのない存在でありましょう。

私は三十年以上もの間、夏になると、箱根の坐禅会で青山俊董老師（愛知尼僧堂長）

という屈指の名僧にお会いさせていただきましたが、その青山老師が重度心身障害者の施設で講演をされたときのことを綴った一文を紹介させていただきます。

・・・自分で歩くこともできない方々が、車椅子に乗せていただき、五十人ほど講堂に集まっておられた。車椅子にも乗れない方は、大きなベットのまま、運び込まれていた。壇上に立った私は思わず息を飲んだ。そういうさまざまな障害を負われた方々を前に、一時間半、私なりに全



身心を傾けてお話をした。約束の時間を過ぎてしまい、疲れられたのではなからうかと懸念しつつお話を結び、その日の出会いを感謝する言葉を述べると、全員がまさに命がけの拍手をしてくれたのだが、それが音にならないのである。全身で拍手をしようとするのであるが、両手の高さがずれてしまうか、両手がぶつかるところまで伸びないか、指がちぢんでしまっているか・・・で。私は音なき万雷の拍手を、頭を垂れて聞いた。涙がとめどなく流れ出た。

壇をおり、一人一人を拝みながら会場を退出しようとする私に、皆さんが、動けない体や手を伸ばし、言葉にならない言葉を発して、「オーオー」と、その喜びを全身で語り、握手を求めてきた。

一人一人の手をしっかりと握り、肩をさすり、拝みつつ、

その方々が全身で語りかけて
くださったたくさんの、たく
さんの言葉を聞くことができ
た。

「他人さまの手を借りずに
自分で歩いてお便所に行き、
一つも作ってやりたい。」

ご逝去の方々と命日

・故 渡辺フミ子 様

行年 八十九歳

令和三年四月二十一日没

榎本

施主 渡辺一雅 様

・故 山口 滋 様

行年 八十歳

令和三年六月十五日没

南足柄市

施主 朝倉貴美恵 様

・故 花堂 一美 様

行年 七十三歳

令和三年五月十日没

小田原市

施主 花堂四十四 様

・故 園部 竹平 様

行年 七十九歳

令和三年六月二十一日没

南足柄市

施主 園部 クラ子 様

・故 長藤 久光 様

行年 九十一歳

令和三年六月九日没

榎本

施主 長藤 恒成 様

・故 中根 三男 様

行年 七十一歳

令和三年六月二十三日没

山北町

施主 中根 ふみ 様

「普通に目を開き、普通に口
を閉じ、普通の顔の表情をし
ていることができるというだ
けでも、容易にならないこと
なんだよ。どれ一つとっても、
ただごとでないそんな大変な
命を授かっていながら、その
ありがたさに少しも気づいて
いないじゃないか。そのうち
の一つが授かっただけでも、
私たちは天地がひっくり返るほ
どうれしいのに、そのすべて
を初めから全部いただいてい
ながら、そのありがたさに気
づかず、そんな大変な命を
ひっさげて、あなた方のやつ
ていることは何だ！どうでも
よいようなことばかり、生き
てゆく上においては末の末の
名誉とか利益とか、そんなも
のばかりをむやみにほしが
り、追いかけて、奪い合ってい
るのではないか。途方もないこ
の命の尊さ、重さに気づけ！
一人一人が、体全体で、あ
るいは音なき拍手で語りかけ
てくれる声が、私の心の深み
にビンビンと響いてきた
(後略)

この青山老師のご文章は
日々口は出せない苦しみや悲
しみを我がこととして「観じ
る」ことから出てきたもので
す。人々の苦しみの声(音)
を単に「見る」のではなく全
体で「観じる」のが、観音様
のお名前の由来ですが、こう
した仏のまなざしが私たちに
大切な指針を与えてくれるの
ではないでしょうか。

